

I がん登録の概要

1. 目的

地域がん登録は、一定地域に居住する全住民中に発生した全てのがんについて、発症から治療、死亡にいたるまでの全医療経過に関する情報を収集し、その情報をもとに次のことを行い、がん予防の推進、がん医療の向上に役立てることを目的としている。

- ①罹患率の測定
- ②受療状況の把握
- ③生存率の測定
- ④がん予防、医療活動の評価
- ⑤医療機関への情報提供
- ⑥疫学研究への活用

2. 登録方法

岡山県医師会情報センター(以下「本登録室」という。)では、がん患者登録は、岡山県内及び隣接県の医療機関からの「岡山県がん登録届出票」(以下「届出票」という。)または「磁気媒体」による届出を整理し、患者毎にID番号をつけることにより行う。さらに、人口動態調査死亡票(以下「死亡票」という。)による死亡情報と照合し未登録患者については補充調査(医療機関への照会)を行うとともに、新たなID番号をつけて登録管理する。ただし、1人の患者に独立して発生した複数の腫瘍(多重がん)はそれぞれを別のがんとして集計するためこれについては同IDの別データとして取り扱う。

3. 集計対象

本報告の罹患集計対象は、岡山県の居住者(外国人を含む)で、2006年1月1日から12月31日までの間に初めてがんと診断された者とした。死亡票のみで登録した患者については、「死亡年月日」を「診断年月日」として、集計に加えた。

4. 人口および標準人口

罹患率の計算には、2000年の国勢調査総人口を、死亡率の計算には、2005年の人口動態調査報告における人口を用いた。

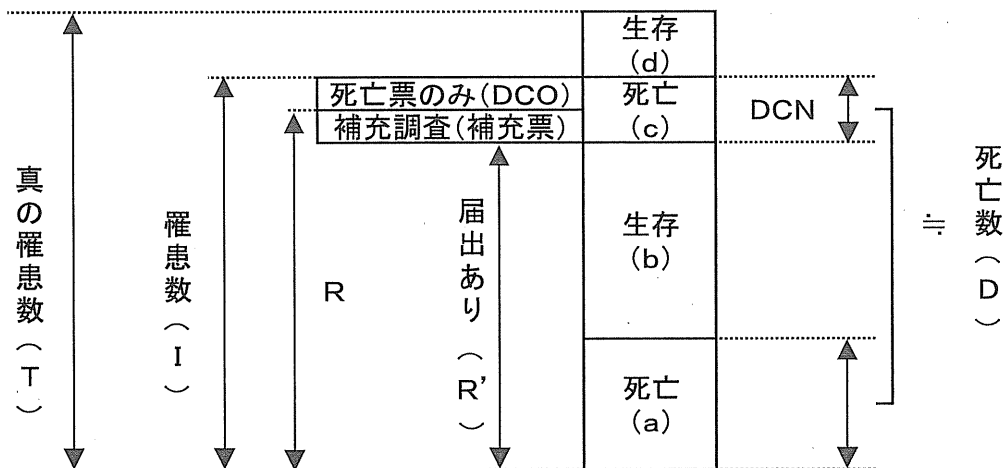
年齢調整罹患率及び年齢調整死亡率の算出には、1985年日本人モデル人口及び「DoIIの世界人口」を用いた。

5. 部位分類

がん原発部位の分類は、国際疾病分類第10回修正(ICD-10)により、また、組織型の分類は、国際疾病分類—腫瘍学第2版(ICD-O-2)により行っている。

6. 登録の精度

医療機関からの届出および死亡票との照合が終了した時点において、届出患者数、死亡情報から得られたがん患者の数及び届出のない患者の数などの関係は、下記の図のように示すことができる。



1) DCN (Death Certificate Notification) とは、

把握されたがん罹患者 (I) のうち死亡票で初めて登録された患者のことである。言いかえると、DCN とは生存中がんであることを把握されなかったがん患者である。また、DCO (Death Certificate Only) とは、DCN のうち死亡票のみによって登録されたがん患者、すなわち、死亡票で初めて把握され、かつ、補充調査を行っても医療機関から届出のない患者のことである。もし多くのがん患者が死亡票によって初めて登録されたり、死亡票のみによって登録されていれば、つまり、もし DCN 割合や DCO 割合が高ければ、より多くの生存患者が登録漏れになっており、罹患者は実際より低く見積もられている可能性が高くなる。地域がん登録における量的精度の目標値としては、 $DCO \leq 15 \sim 20\%$ 、 $DCN \leq 25 \sim 30\%$ という基準が示されている。

また、得られた罹患者の量的精度を示す第二の指標として、罹患者とがん死亡数との比 I/D があり、 I/D 比 1.5 以上かつ、DCO 割合 25% 未満となった登録の成績が、全国値の推計に用いられている。

岡山県においては、毎年補充調査を行っているため、 $DCO < DCN$ となり、全国値の推計に用いられるなど高い評価を得ている。1993 年以降の DCO 割合・DCN 割合・ I/D 比の推移は表 1 のようになる。

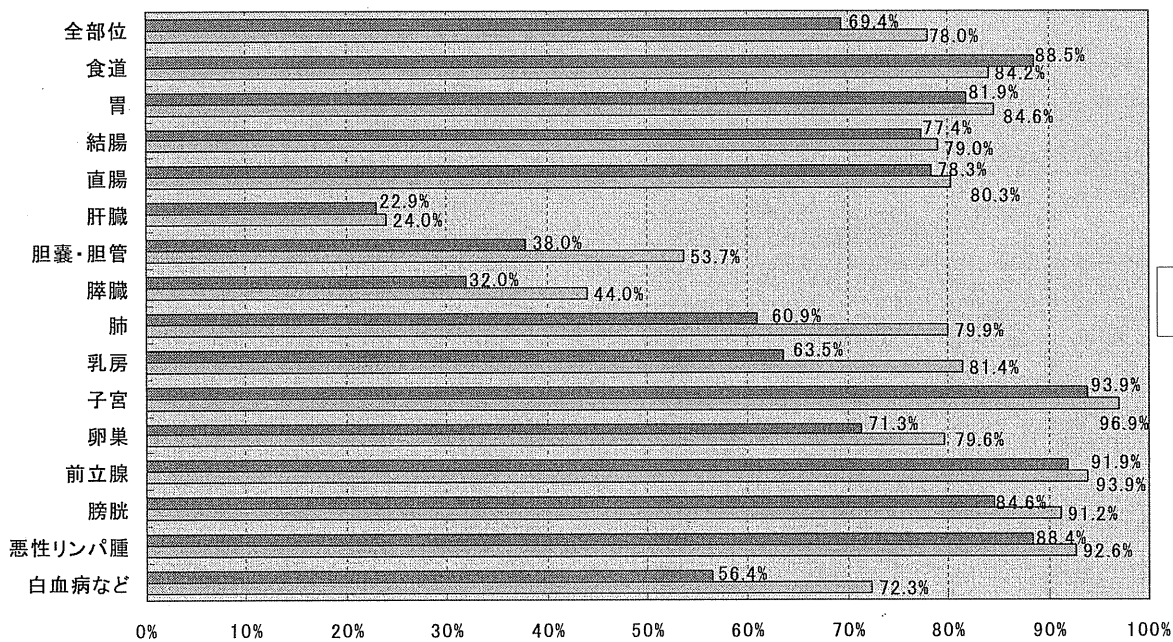
表1 DCN割合、DCO割合の推移

	届出による 登録数(R)	DCO数	DCN数	罹患数(I)	DCO割合	DCN割合	死亡数	I/D比
1993	4,269	497	980	4,766	10.4%	20.6%	2,097	2.27
1994	4,124	702	1,048	4,826	14.5%	21.7%	2,208	2.19
1995	4,208	938	1,052	5,146	18.2%	20.4%	2,269	2.27
1996	8,169	805	1,741	8,974	9.0%	19.4%	4,489	2.00
1997	8,208	731	1,728	8,939	8.2%	19.3%	4,416	2.02
1998	8,154	790	1,509	8,944	8.8%	16.9%	4,683	1.91
1999	8,180	833	1,564	9,013	9.2%	17.4%	4,745	1.90
2000	8,512	699	1,684	9,211	7.6%	18.3%	4,778	1.93
2001	8,602	712	1,796	9,314	7.6%	19.3%	5,022	1.85
2002	9,189	781	1,774	9,970	7.8%	17.8%	5,222	1.91
2003	9,439	744	1,719	10,183	7.3%	16.9%	5,266	1.93
2004	9,040	772	1,896	9,812	7.9%	19.3%	5,354	1.83
2005	9,355	758	2,029	10,113	7.5%	20.1%	5,317	1.90
2006	8,985	858	1,995	9,843	8.7%	20.3%	5,344	1.84

1993-1995年は胃、結腸、直腸、肺、乳房、子宮の6部位を対象とした。

2) 組織診断実施率は、把握されたがんのうち組織診断によって診断されたものの割合で、診断の精度を示す指標として、がん登録で幅広く利用されている。他の指標としては、顕微鏡学的診断実施率、すなわち組織診または細胞診により顕微鏡的に確かめられた患者の割合が用いられる。いずれについても、死亡票も含めた総罹患数(I)に対する割合と、医療機関から届け出された登録患者数(R)に対する割合とがある。図1では後者で割合を示した。

図1 届出罹患数に対する診断精度



H : 組織診断により確かめられたもの

H' : 組織診断または細胞診断により確かめられたもの

II がん罹患数及び罹患率

1. 主要部位別罹患数、粗罹患率及び年齢調整罹患率

表2に、2006年のがん罹患数、粗罹患率及び年齢調整罹患率（標準人口：1985年日本人モデル人口、世界人口）、罹患割合を、主要部位別、男女別に示した。

全がん罹患数は、男5,645、女4,198、計9,843人となった。人口10万人当たりの粗罹患率は男602.0、女412.9、日本人モデル人口による年齢調整罹患率は、男349.0、女234.9、世界人口による年齢調整罹患率は、男245.7、女175.1となった。

男については粗罹患率、年齢調整罹患率とも胃が1位となった。女については粗罹患率、年齢調整罹患率ともに乳房が1位となった。

表2 罹患数、粗罹患率、年齢調整罹患率および罹患割合：主要部位別、性別 2006年

部位	罹患数		粗罹患率 (人口10万対)		年齢調整罹患率				罹患割合	
					日本人人口 ^(*1)		世界人口 ^(*2)			
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
全部位	5,645	4,198	602.0	412.9	349.0	234.9	245.7	175.1	100.0%	100.0%
口腔・咽頭	95	38	10.1	3.7	6.6	1.9	4.9	1.5	1.7%	0.9%
食道	194	36	20.7	3.5	13.0	1.9	9.7	1.4	3.4%	0.9%
胃	1,021	527	108.9	51.8	63.8	24.2	44.7	17.2	18.1%	12.6%
結腸	542	489	57.8	48.1	34.1	22.1	24.4	15.6	9.6%	11.6%
直腸	357	233	38.1	22.9	24.0	12.2	17.4	8.9	6.3%	5.6%
肝臓	465	234	49.6	23.0	29.1	10.1	20.7	7.0	8.2%	5.6%
胆嚢・胆管	135	154	14.4	15.1	7.5	5.5	4.9	3.6	2.4%	3.7%
膵臓	214	188	22.8	18.5	13.0	7.1	8.9	4.8	3.8%	4.5%
喉頭	46	3	4.9	0.3	2.9	0.2	2.1	0.1	0.8%	0.1%
肺	970	388	103.4	38.2	56.5	17.7	38.3	12.7	17.2%	9.2%
皮膚 ^(*3)	81	87	8.6	8.6	4.8	3.4	3.2	2.4	1.4%	2.1%
乳房	5	789	0.5	77.6	0.3	60.7	0.2	46.7	0.1%	18.8%
子宮	-	315	-	31.0	-	27.2	-	21.8	-	7.5%
卵巣	-	118	-	11.6	-	8.4	-	6.5	-	2.8%
前立腺	602	-	64.2	-	34.4	-	23.4	-	10.7%	-
腎など	171	63	18.2	6.2	10.9	2.9	7.6	2.0	3.0%	1.5%
膀胱	263	69	28.0	6.8	15.4	2.6	10.7	1.8	4.7%	1.6%
脳・神経系	36	36	3.8	3.5	2.7	2.4	2.5	2.1	0.6%	0.9%
甲状腺	28	100	3.0	9.8	2.2	7.2	1.8	5.7	0.5%	2.4%
悪性リンパ腫	167	122	17.8	12.0	10.3	7.0	7.2	5.2	3.0%	2.9%
多発性骨髄腫	28	39	3.0	3.8	1.6	1.7	1.1	1.2	0.5%	0.9%
白血病	64	60	6.8	5.9	4.5	3.6	3.5	3.3	1.1%	1.4%

日本人人口^(*1):1985年日本人モデル人口 世界人口^(*2):Dollの世界人口

皮膚^(*3):皮膚の黒色腫を含む

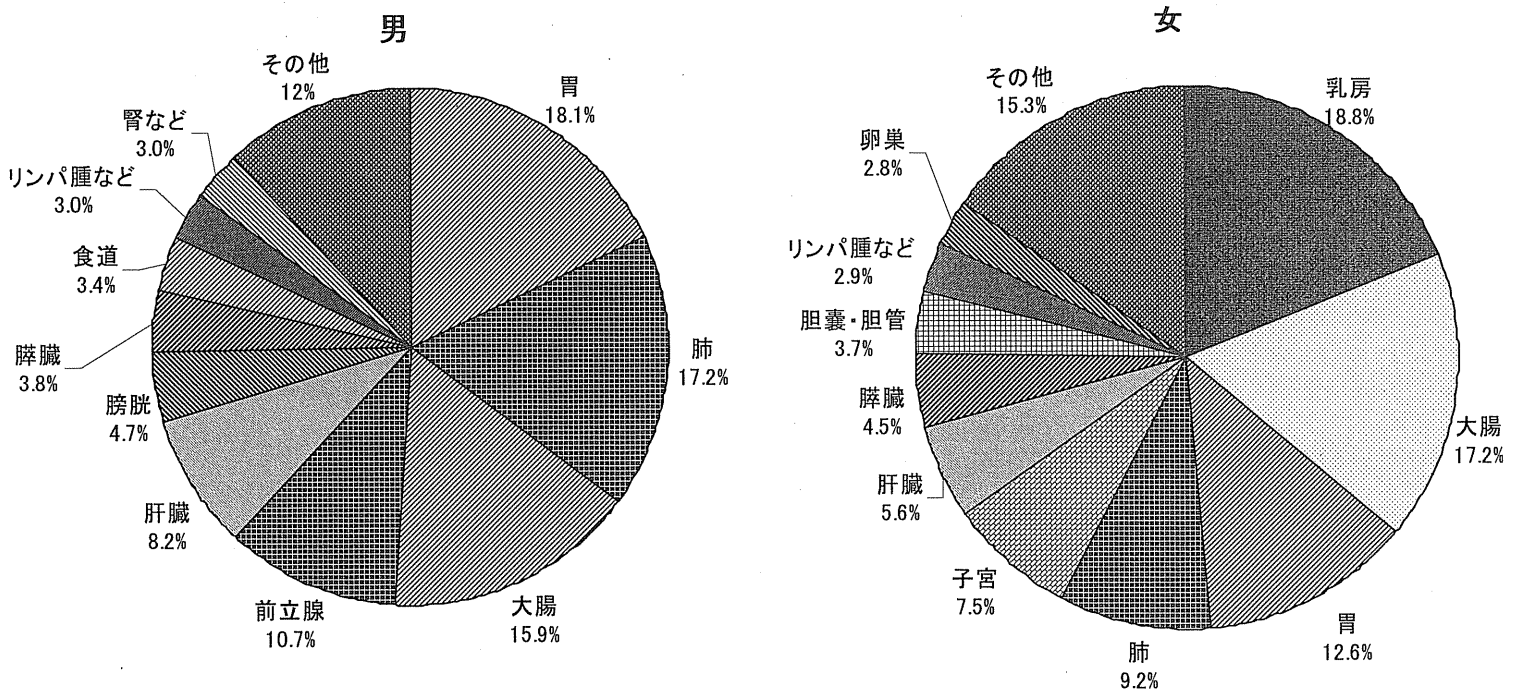
表3に罹患数上位12部位の罹患数とその割合を、図2に主要部位別罹患数を男女別にグラフで示した（結腸と直腸を合わせて大腸とした）。男では上位3部位で、女では上位4部位でほぼ半数を占めた。

表3 罹患数上位12位までの部位とその割合、性別、男女計

2006年

部位	男		部位	女		部位	男女計	
	罹患数	罹患割合		罹患数	罹患割合		罹患数	罹患割合
全部位	5,645	100.0%	全部位*	4,198	100.0%	全部位	9,843	100.0%
胃	1,021	18.1%	乳房	789	18.8%	大腸	1,621	16.5%
肺	970	17.2%	大腸	722	17.2%	胃	1,548	15.7%
大腸	899	15.9%	胃	527	12.6%	肺	1,358	13.8%
前立腺	602	10.7%	肺	388	9.2%	乳房	794	8.1%
肝臓	465	8.2%	子宮	315	7.5%	肝臓	699	7.1%
膀胱	263	4.7%	肝臓	234	5.6%	前立腺	602	6.1%
脾臓	214	3.8%	脾臓	188	4.5%	脾臓	402	4.1%
食道	194	3.4%	胆嚢・胆管	154	3.7%	膀胱	332	3.4%
リンパ腫など	167	3.0%	リンパ腫など	122	2.9%	子宮	315	3.2%
腎など	171	3.0%	卵巣	118	2.8%	リンパ腫など	289	2.9%
胆嚢・胆管	135	2.4%	甲状腺	100	2.4%	胆嚢・胆管	289	2.9%
口腔・咽頭	95	1.7%	膀胱	69	1.6%	腎など	234	2.4%

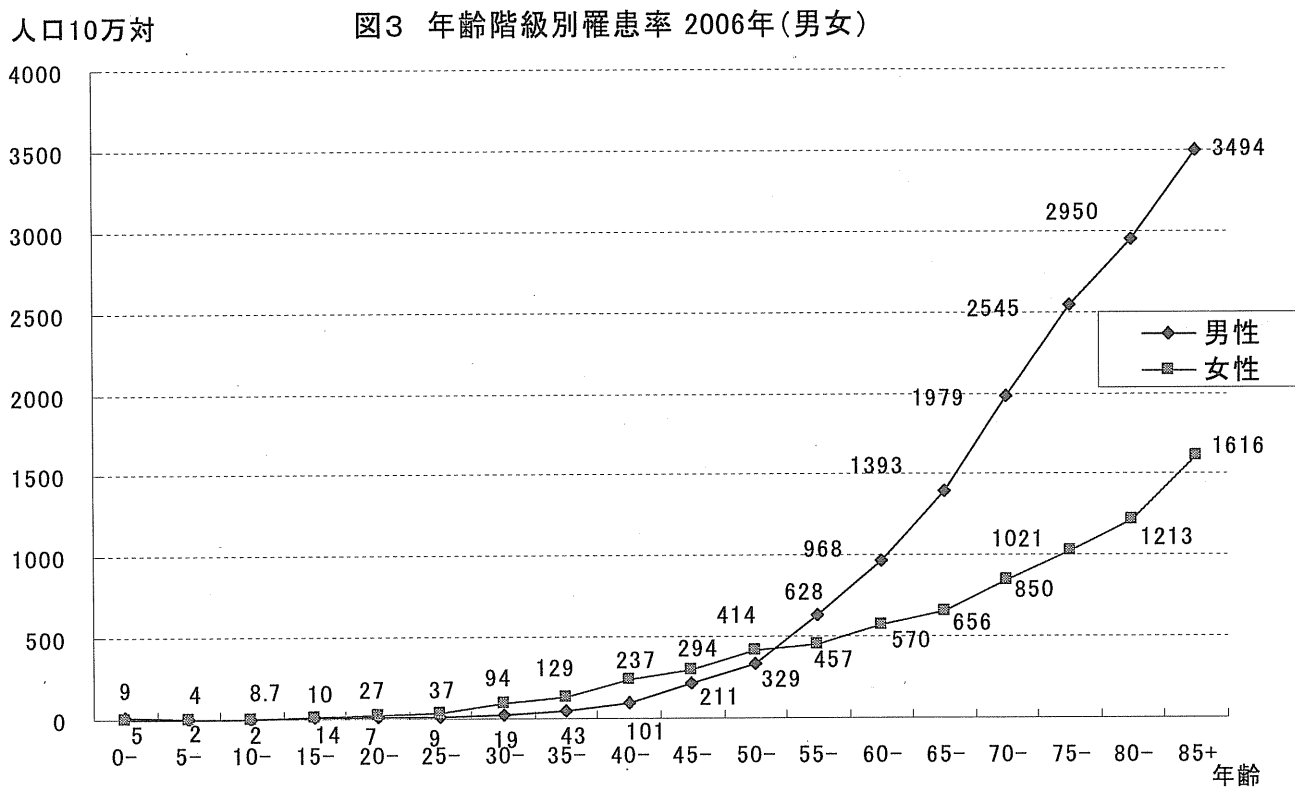
図2 罹患数による部位別割合(%)：主要10部位別、性別



2. 年齢階級別罹患率

(1) 全部位の年齢階級別罹患率

図3に年齢階級別罹患率を男女別に示した。



(2) 特定部位の年齢階級別罹患率

図 4、5 に特定部位の年齢階級別罹患率を男女別に示した(結腸と直腸を合わせて大腸とした)。(数値については、付表 11、12 参照)

図4 年齢階級別罹患率 <特定部位> -男-

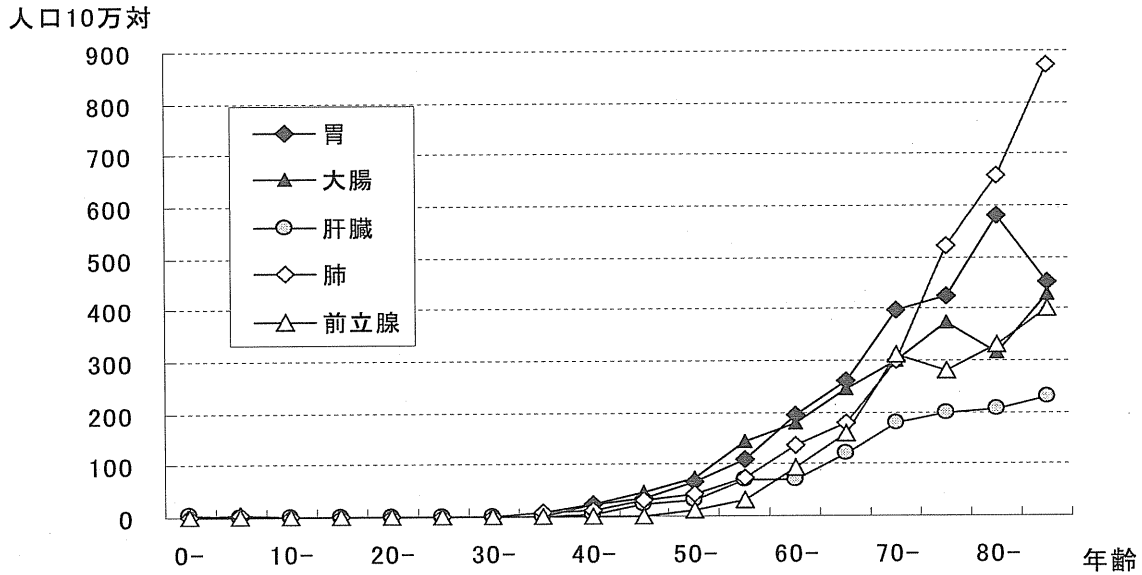
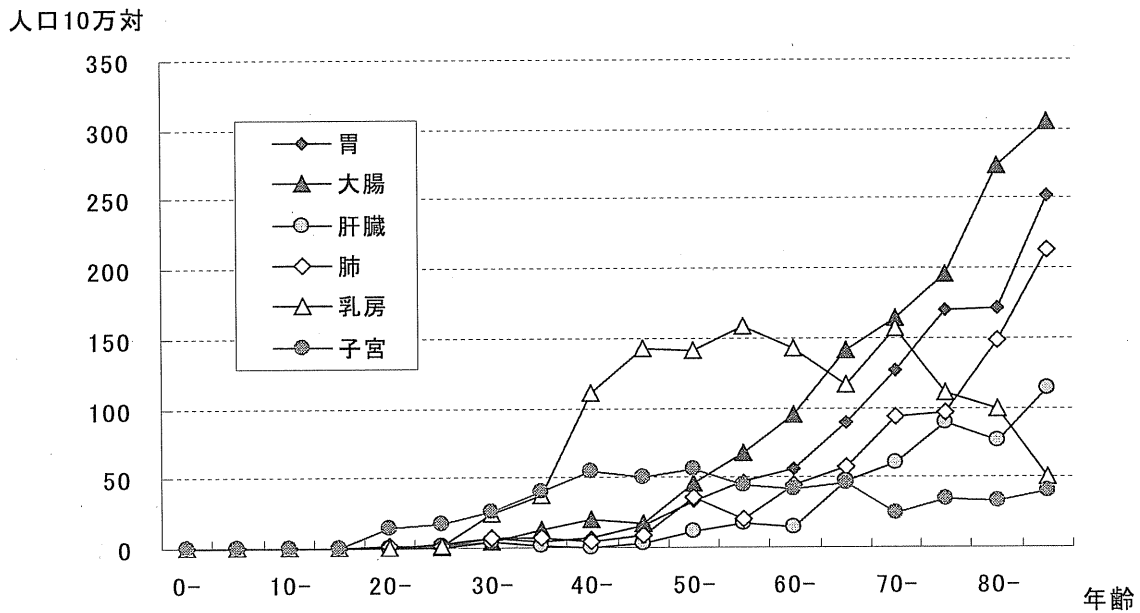


図5 年齢階級別罹患率 <特定部位> -女-



3. 主要部位別の罹患率の年次推移

図 6, 7 に、主要部位別、男の罹患率の推移を、粗率と年齢調整率（1985 年日本人モデル人口）とで示した（結腸と直腸を合わせて大腸とした）。

図6 粗罹患率の年次推移—主要部位、男

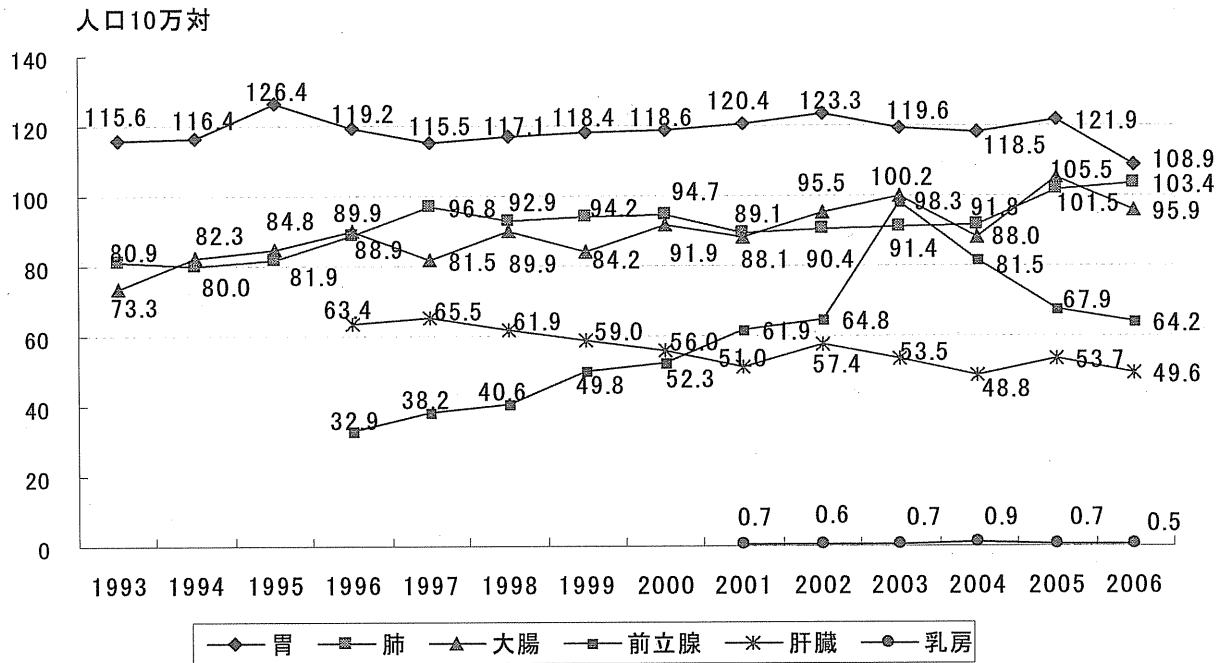


図7 年齢調整罹患率の年次推移—主要部位別、男

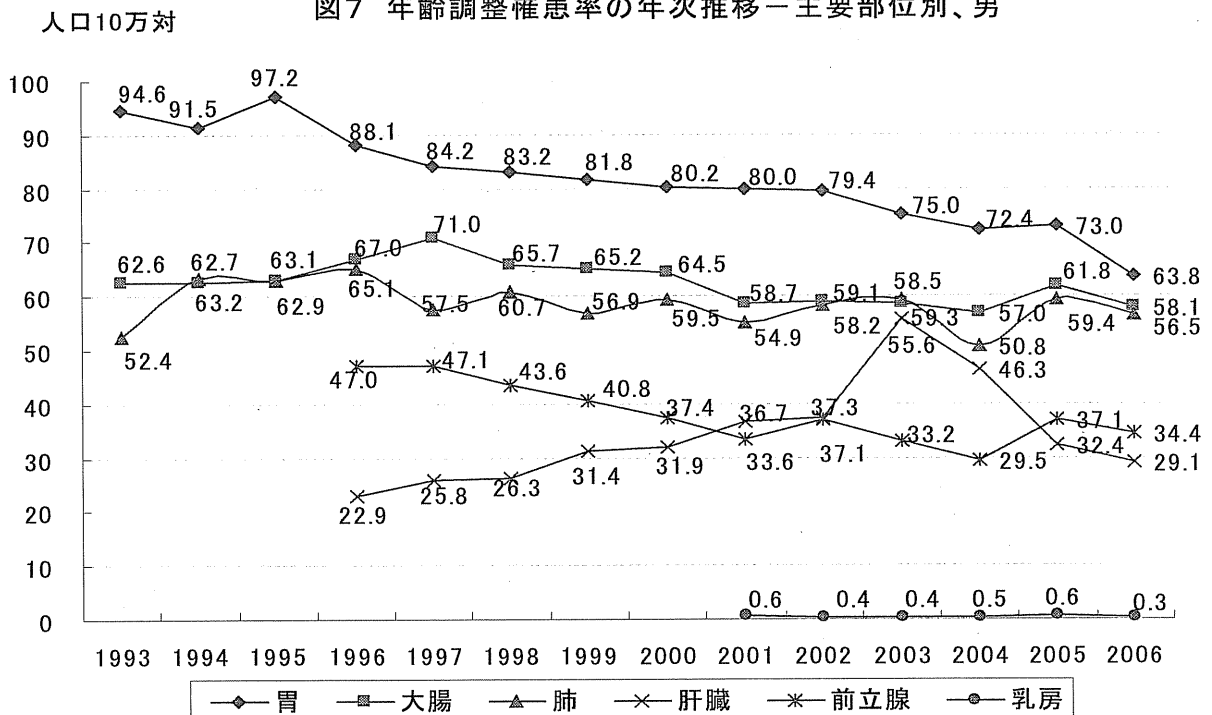
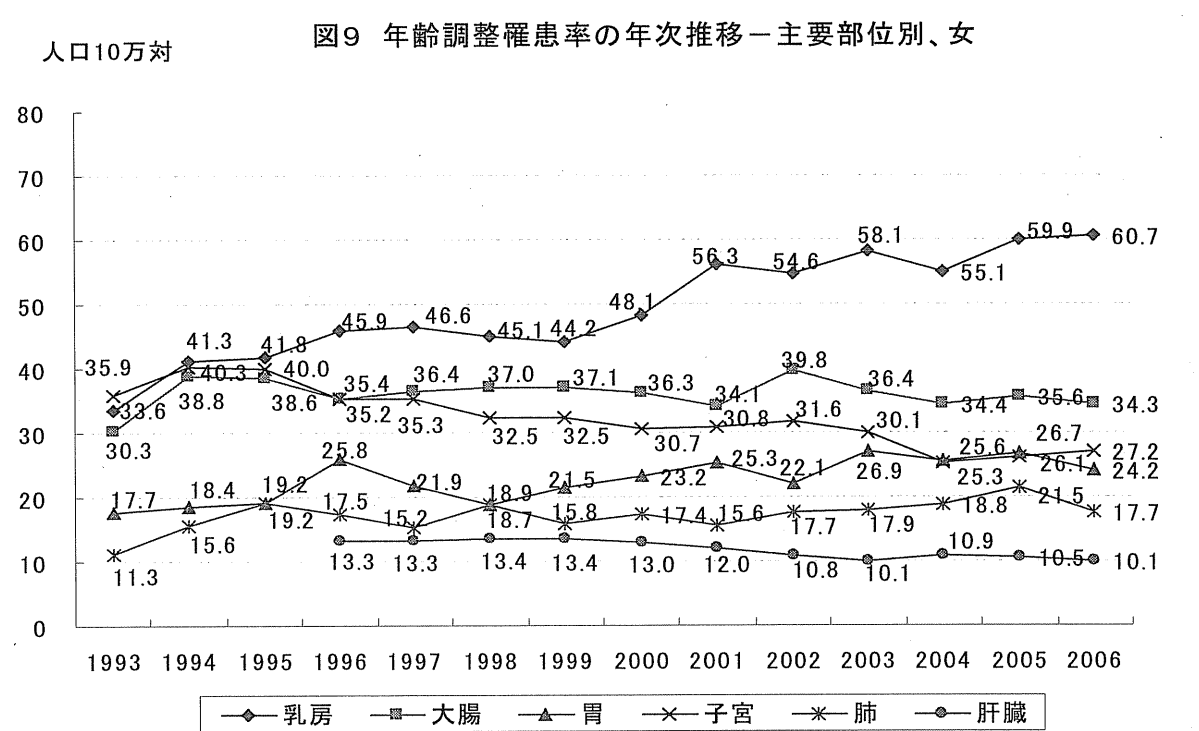
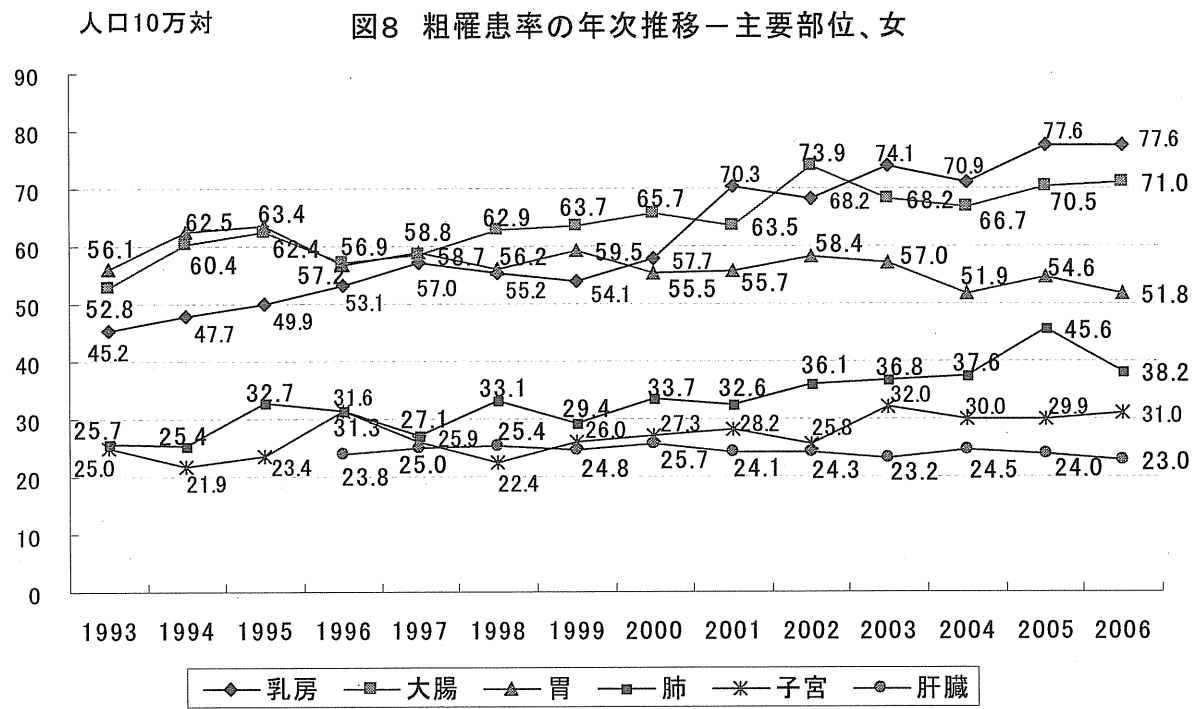


図 8,9 に、主要部位別、女の罹患率の推移を、粗率と年齢調整率（1985 年日本人モデル人口）とで示した（結腸と直腸を合わせて大腸とした）。



4. 罹患率の岡山県と全国との比較

表4では、年齢調整罹患率を岡山県（2006年）と全国（2004年推計値）で対比した。

岡山県の全国に対する比を日本人モデル人口で見ると、全部位では男は0.87、女も0.88と全国値を下回った。世界人口も同様の結果であった。

部位別にみると、男では膀胱（1.22）、皮膚（1.05）、直腸、腎など（1.04）が全国値に比べ高く、女では直腸（1.17）、皮膚（1.07）、脳・神経系（1.02）などが全国値に比べ高かった。

表4 岡山県と全国との比較 -年齢調整罹患率-：主要部位別、性別 2006年

	年齢調整罹患率(日本人人口)				年齢調整罹患率(世界人口) ^{(*)2}			
	男		女		岡山/全国 ^{(*)3}		岡山/全国 ^{(*)3}	
	岡山	全国 ^{(*)3}	岡山	全国 ^{(*)3}	男	女	男	女
全部位	349.0	400.4	234.9	266.2	0.87	0.88	0.87	0.88
口腔・咽頭	6.6	8.1	1.9	2.8	0.81	0.69	0.82	0.70
食道	13.0	16.4	1.9	2.2	0.79	0.86	0.82	0.88
胃	63.8	79.6	24.2	30.2	0.80	0.80	0.79	0.80
結腸	34.1	38.1	22.1	23.8	0.89	0.93	0.91	0.92
直腸	24.0	23.1	12.2	10.5	1.04	1.17	1.04	1.15
肝臓	29.1	30.2	10.1	10.3	0.96	0.98	0.96	0.98
胆嚢・胆管	7.5	9.4	5.5	7.0	0.80	0.78	0.78	0.76
膵臓	13.0	13.9	7.1	8.4	0.94	0.84	0.93	0.84
喉頭	2.9	3.4	0.2	0.2	0.85	0.76	0.86	1.10
肺	56.5	58.1	17.7	19.5	0.97	0.91	0.98	0.93
皮膚 ^{(*)4}	4.8	4.6	3.4	3.2	1.05	1.07	0.99	1.10
乳房	0.3	-	60.7	62.0	-	0.98	-	0.97
子宮	-	-	27.2	32.6	-	0.83	-	0.84
卵巣	-	-	8.4	10.3	-	0.81	-	0.80
前立腺	34.4	39.7	-	-	0.87	-	0.88	-
腎など	10.9	10.5	2.9	3.8	1.04	0.75	1.01	0.71
膀胱	15.4	12.6	2.6	2.9	1.22	0.90	1.24	0.91
脳・神経系	2.7	3.1	2.4	2.4	0.88	1.02	0.95	1.00
甲状腺	2.2	2.4	7.2	8.5	0.93	0.85	0.98	0.84
悪性リンパ腫	10.3	10.8	7.0	7.6	0.95	0.92	0.90	0.90
多発性骨髄腫	1.6	2.8	1.7	1.7	0.58	0.97	0.58	0.97
白血病	4.5	6.5	3.6	3.9	0.70	0.92	0.67	1.00

日本人人口：1985年日本人モデル人口 世界人口：Dollの世界人口

全国^{(*)3}：厚生省がん研究助成金による「地域がん登録」研究班が10府県市の成績から推計した最新値

皮膚^{(*)4}：皮膚の黒色腫を含む

図 10 に全部位の 5 歳年齢階級別・性別罹患率のグラフを全国値（2004 年推計値）と
 ともに示した。

図 11 に、全部位の年齢調整罹患率（標準人口：1985 年日本人モデル人口）の 1996
 年～2006 年の年次推移を、男女別に全国値（1996 年～2006 年推計値）ととも
 に示した。

図10 年齢階級別罹患率<全部位、性別> - 全国値との比較 -

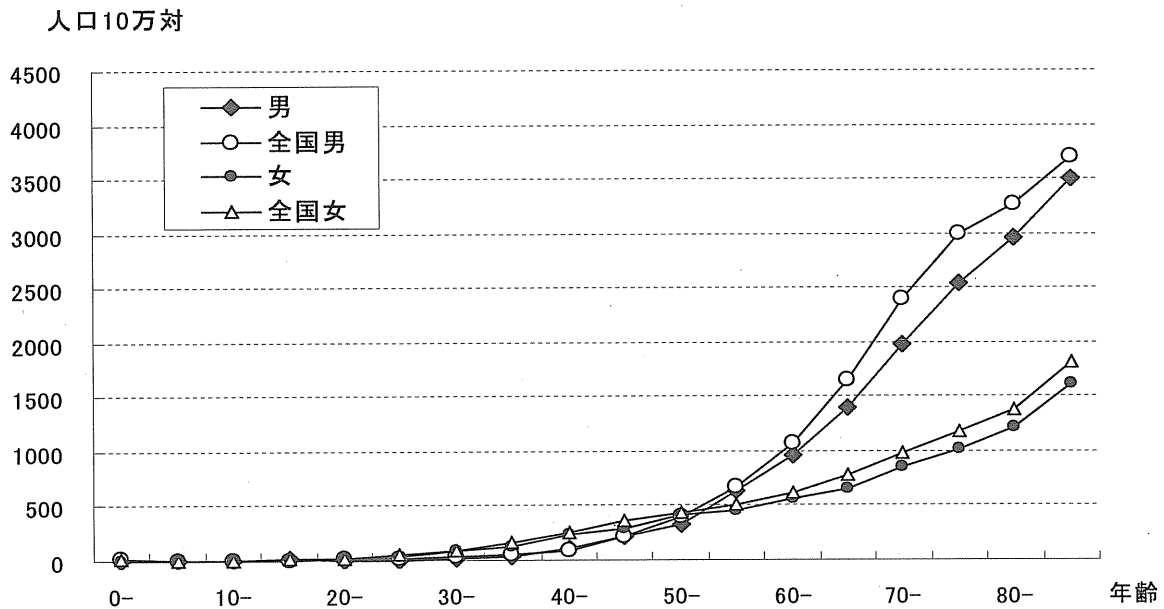
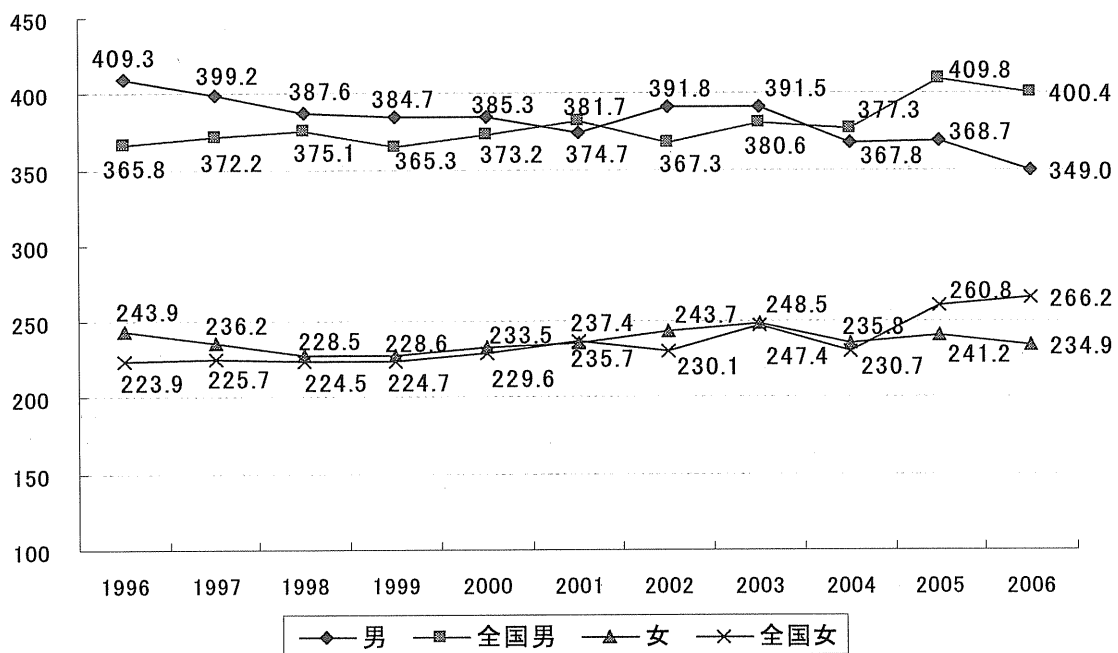


図 11 年齢調整罹患率の年次推移-全部位、性別-全国値との比較 -



Ⅲ がん死亡数及び死亡率

1. 主要部位別死亡数、粗死亡率及び年齢調整死亡率

表5に、岡山県の2006年のがん死亡数、粗死亡率及び年齢調整死亡率（標準人口：1985年日本人モデル人口）、死亡割合を男女別、主要部位別に示した。

がん死亡数については、人口動態統計の数値（外国人を含まない）を使用した。

死亡割合についてみると、男では、肺（24.9%）、胃（16.2%）、肝臓（14.0%）が上位3位を占め、女では胃（14.9%）、肺（13.4%）、大腸（13.0%）が上位3位を占めた。結腸と直腸を合わせて大腸とすると、大腸が男では9.6%で4位、女では13.0%で3位となる。

表5 死亡数、粗死亡率、年齢調整死亡率および死亡割合：主要部位別、性別 2006年

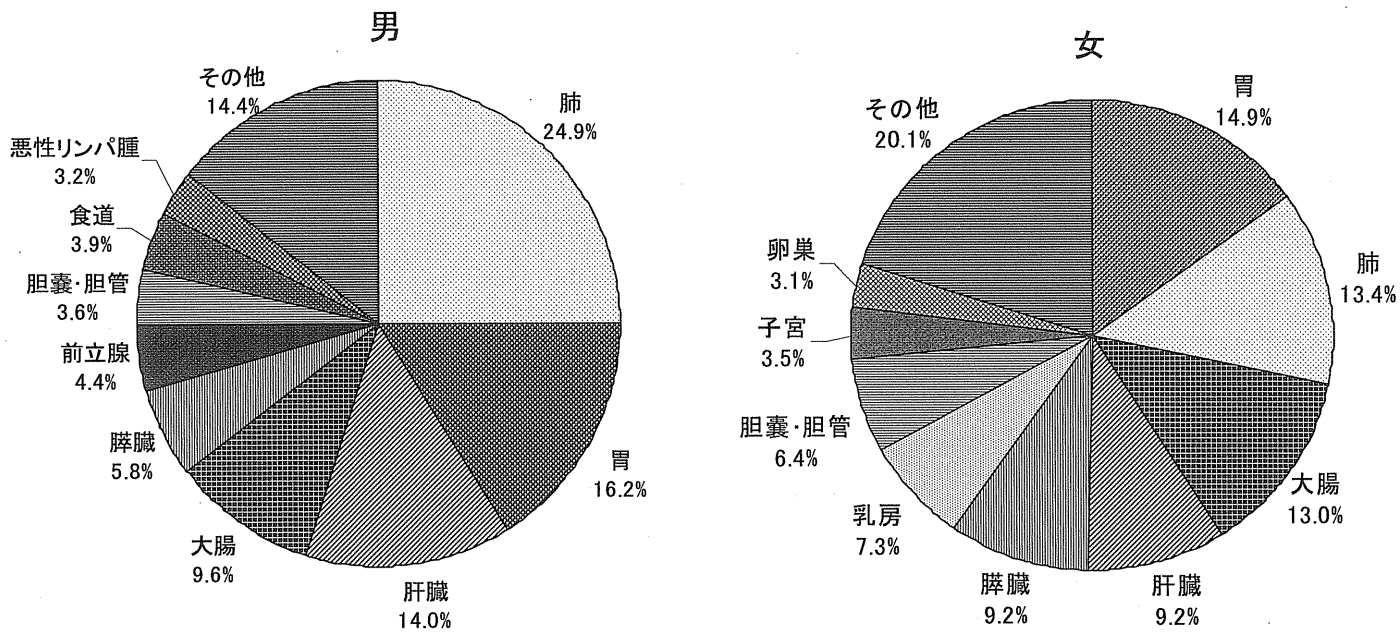
部位	死亡数		粗死亡率		年齢調整死亡率				死亡割合	
					日本人人口		世界人口			
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
全部位	3,107	1,990	331.3	195.7	182.0	82.4	124.7	58.5	100.0%	100.0%
口腔・咽頭	58	24	6.2	2.4	3.6	0.7	2.5	0.5	1.9%	1.2%
食道	122	23	13.0	2.3	7.7	0.8	5.5	0.5	3.9%	1.2%
胃	504	296	53.7	29.1	29.9	11.3	20.7	8.0	16.2%	14.9%
結腸	196	185	20.9	18.2	12.0	7.0	8.5	4.9	6.3%	9.3%
直腸	103	73	11.0	7.2	6.5	3.3	4.7	2.3	3.3%	3.7%
肝臓	434	183	46.3	18.0	26.3	6.9	18.2	4.6	14.0%	9.2%
胆嚢・胆管	111	128	11.8	12.6	6.2	4.4	4.3	2.9	3.6%	6.4%
膵臓	180	183	19.2	18.0	11.0	6.7	7.5	4.5	5.8%	9.2%
喉頭	6	1	0.6	0.1	0.3	0.0	0.2	0.0	0.2%	0.1%
肺	774	266	82.5	26.2	43.8	10.0	28.9	6.9	24.9%	13.4%
皮膚*3)	8	10	0.9	1.0	0.5	0.4	0.3	0.3	0.3%	0.5%
乳房	1	146	0.1	14.4	-	9.6	-	7.3	0.0%	7.3%
子宮	-	69	-	6.8	-	3.9	-	2.9	-	3.5%
卵巣	-	61	-	6.0	-	3.8	-	2.9	-	3.1%
前立腺	138	-	14.7	-	6.9	-	4.2	-	4.4%	-
膀胱	71	34	7.6	3.3	3.6	0.9	2.4	0.6	2.3%	1.7%
脳・神経系	21	9	2.2	0.9	1.5	0.6	1.3	0.5	0.7%	0.5%
悪性リンパ腫	98	57	10.5	5.6	5.8	2.1	4.0	1.4	3.2%	2.9%
白血病	53	47	5.7	4.6	3.4	2.1	2.4	1.8	1.7%	2.4%

日本人人口：1985年日本人モデル人口 世界人口：Dollの世界人口

皮膚*3)：皮膚の黒色腫を含む

図 12 に、上位 9 位の部位別死亡割合を男女別にグラフで示した（結腸と直腸を合わせて大腸とした）。

図 12 死亡数による部位別割合（％）：主要部位別、性別



2. 罹患と死亡の比較

表6に罹患と死亡（人口動態統計による）について、数、粗率、年齢調整率を男女計について対比するとともに、罹患数の死亡数に対する比（I/D比）及び死亡数の罹患数に対する比（D/I比）を示した。なお、外国人については、罹患数集計では除外していないが、死亡数は外国人を除外した数値である。

届出の量的精度を示す第二の指標である全部位のI/D比は、1.93となった。部位別のI/D比は、生存率の相対的な大小を示唆するものであるが、皮膚9.33、喉頭7.00、乳房5.40、子宮4.57、前立腺4.36が4.00以上と高かった。

表6 罹患数及び死亡数、粗率、年齢調整率(人口10万対)及び罹患数と死亡数の比:主要部位別、男女計 2006年

	数		粗率		年齢調整率 ^(*)		罹患数 ／死亡数	死亡数 ／罹患数
	罹患	死亡	罹患	死亡	罹患	死亡		
全部位	9,843	5,097	503.6	260.8	282.0	125.2	1.93	0.52
口腔・咽頭	133	82	6.8	4.2	4.1	2.0	1.62	0.62
食道	230	145	11.8	7.4	7.0	4.0	1.59	0.63
胃	1,548	800	79.2	40.9	42.1	19.4	1.94	0.52
結腸	1,031	381	52.8	19.5	27.6	9.2	2.71	0.37
直腸	590	176	30.2	9.0	17.7	4.7	3.35	0.30
肝臓	699	617	35.8	31.6	18.8	15.7	1.13	0.88
胆嚢・胆管	289	239	14.8	12.2	6.4	5.2	1.21	0.83
膵臓	402	363	20.6	18.6	9.8	8.7	1.11	0.90
喉頭	49	7	2.5	0.4	1.4	0.1	7.00	0.14
肺	1,358	1,040	69.5	53.2	34.2	24.4	1.31	0.77
皮膚 ^(*)	168	18	8.6	0.9	4.1	0.4	9.33	0.11
乳房	794	147	40.6	7.5	31.5	5.1	5.40	0.19
子宮	315	69	16.1	3.5	14.0	2.1	4.57	0.22
卵巣	118	61	6.0	3.1	4.4	2.0	1.93	0.52
前立腺	602	138	30.8	7.1	15.0	2.7	4.36	0.23
膀胱	332	105	17.0	5.4	8.1	2.0	3.16	0.32
脳・神経系	72	30	3.7	1.5	2.5	1.1	2.40	0.42
悪性リンパ腫	289	155	14.8	7.9	8.3	3.7	1.86	0.54
白血病	124	100	6.3	5.1	4.0	2.7	1.24	0.81

年齢調整率^(*): 標準人口は1985年日本人モデル人口を用いた。

皮膚^(*): 皮膚の黒色腫を含む

図 13、14 に 2006 年特定部位の罹患数と死亡数を男女別に比較した。

男では、罹患数 2 位の肺が死亡数では 1 位、女では罹患数 3 位の胃が死亡数では、1 位であった。

生存率を反映する I/D 比は、男の前立腺 (4.4)、女の乳房 (5.4)、子宮 (4.6) が高かった。

図 13 2006年罹患数及び死亡数(特定部位)-男-

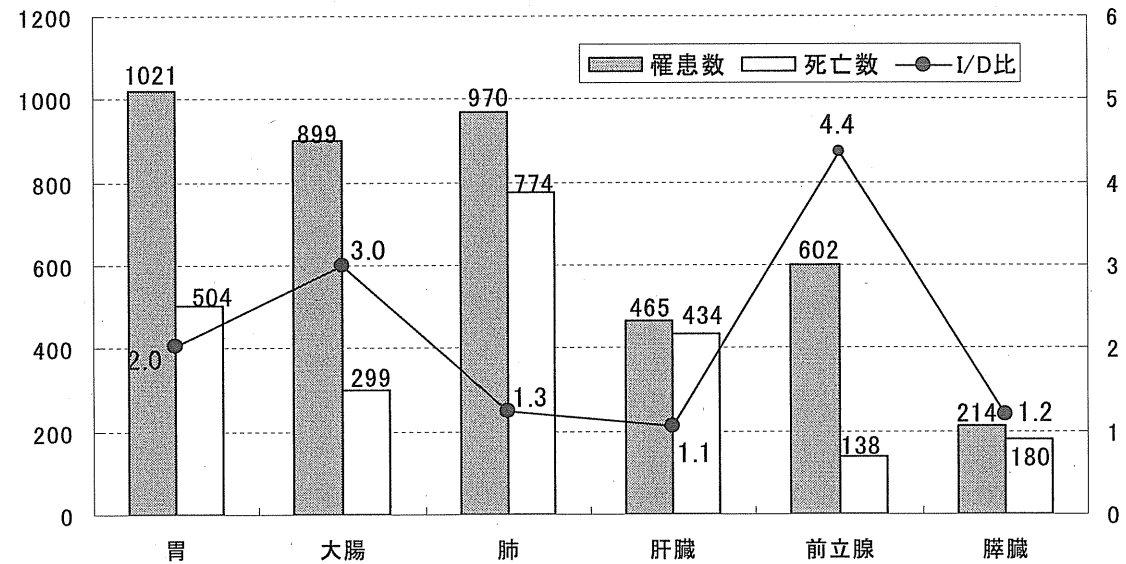
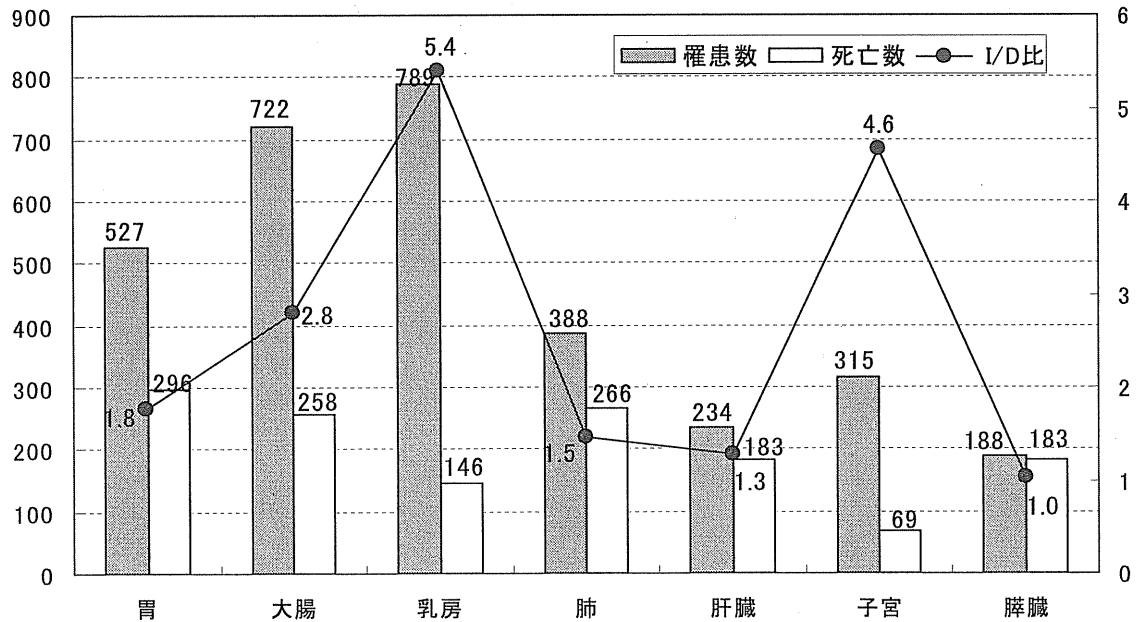


図 14 2006年罹患数及び死亡数(特定部位)-女-



3. 死亡率の岡山県と全国との比較

表7に、年齢調整死亡率を全国値と対比した。全部位で岡山県の全国に対する比をみると、男では0.94、女で0.86と全国を下回った。

表7 岡山県と全国との比較 -年齢調整死亡率と年齢調整罹患率(参考)-: 主要部位別、性別 2006年

	年齢調整死亡率 ^(*)						年齢調整罹患率 ^(*)	
	男		女		岡山/全国		岡山/全国	
	岡山	全国	岡山	全国	男	女	男	女
全部位	182.0	193.6	82.4	95.8	0.94	0.86	0.87	0.88
食道	7.7	9.7	0.8	1.2	0.80	0.67	0.79	0.86
胃	29.9	31.9	11.3	12.0	0.94	0.94	0.80	0.80
結腸	12.0	13.3	7.0	9.0	0.90	0.78	0.89	0.93
直腸	6.5	9.0	3.3	3.8	0.72	0.87	1.04	1.17
肝臓	26.3	22.4	6.9	7.4	1.18	0.94	0.96	0.98
胆嚢・胆管	6.2	7.4	4.4	5.3	0.84	0.82	0.80	0.78
脾臓	11.0	12.5	6.7	7.4	0.88	0.90	0.94	0.84
肺	43.8	44.0	10.0	11.7	1.00	0.85	0.97	0.91
乳房	-	-	9.6	11.7	-	0.82	-	0.98
子宮	-	-	3.9	5.1	-	0.77	-	0.83
卵巣	-	-	3.8	4.3	-	0.88	-	0.81
前立腺	6.9	8.4	0	-	0.8	-	0.87	-
膀胱	3.6	3.8	0.9	1.0	0.96	0.89	1.22	0.90
悪性リンパ腫	5.8	5.0	2.1	2.6	1.16	0.79	0.95	0.92
白血病	3.4	4.7	2.1	20.6	0.72	0.10	0.70	0.92

年齢調整死亡率^(*): 岡山の値については、表5から転記した。全国値については人口動態統計による。

年齢調整罹患率^(*): 表4から転記した。

IV がんの受療状況

1. 受診動機

(1) 受診の動機分布、特定部位別

受診の動機について、判明者の分布を特定部位別に表 8 に示した。「集団検診（集検）」及び「人間ドック」は自発的検診としてまとめて表示した。

判明者中の内訳は、全部位の場合、「自覚症状」が 33.7%、「他病治療中」が 18.2%、「集検又は人間ドック」が 13.7%となった。

部位別の場合「集検又は人間ドック」の割合は、前立腺で最も多く（27.3%）、ついで、結腸、子宮、直腸、胃、肺の順になった。「自覚症状」は、乳房で最も多く（53.4%）、「他病治療中」は肝臓（36.3%）で最も多かった。

表8 受診の動機の分布：特定部位別、男女計

	届出患者数	受診の動機		判明者中の分布(%)			
		不明(%)	判明(%)	集団検診又は 人間ドック(自発 的検診)	自覚症状 (医療機関受 診)	他病治療中	その他
全部位	8,985	4.2	95.8	13.7	33.7	18.2	34.4
胃	1,438	4.2	95.8	17.6	30.2	15.9	36.4
結腸	962	3.4	96.6	20.2	31.3	15.9	32.5
直腸	569	4.2	95.8	19.1	35.0	12.8	33.0
肝臓	591	4.9	95.1	1.4	15.1	36.3	47.2
肺	1,187	6.4	93.6	17.2	27.1	25.0	30.7
乳房	780	2.1	97.9	16.8	53.4	5.6	24.2
子宮	307	3.6	96.4	19.9	47.3	9.1	23.6
前立腺	573	4.9	95.1	27.3	17.8	25.3	29.5

(2) 受診の動機別、根治的治療実施割合

検診群（集検又は人間ドック）、非検診群について、根治的治療の受療の割合を図15, 16に示した。根治的治療の受療割合は全部位で検診群が77.6%と、非検診群の50.5%を大きく上回った。各部位でも検診群の方が非検診群に比べ高かった。

図15 根治的治療別割合<検診群>

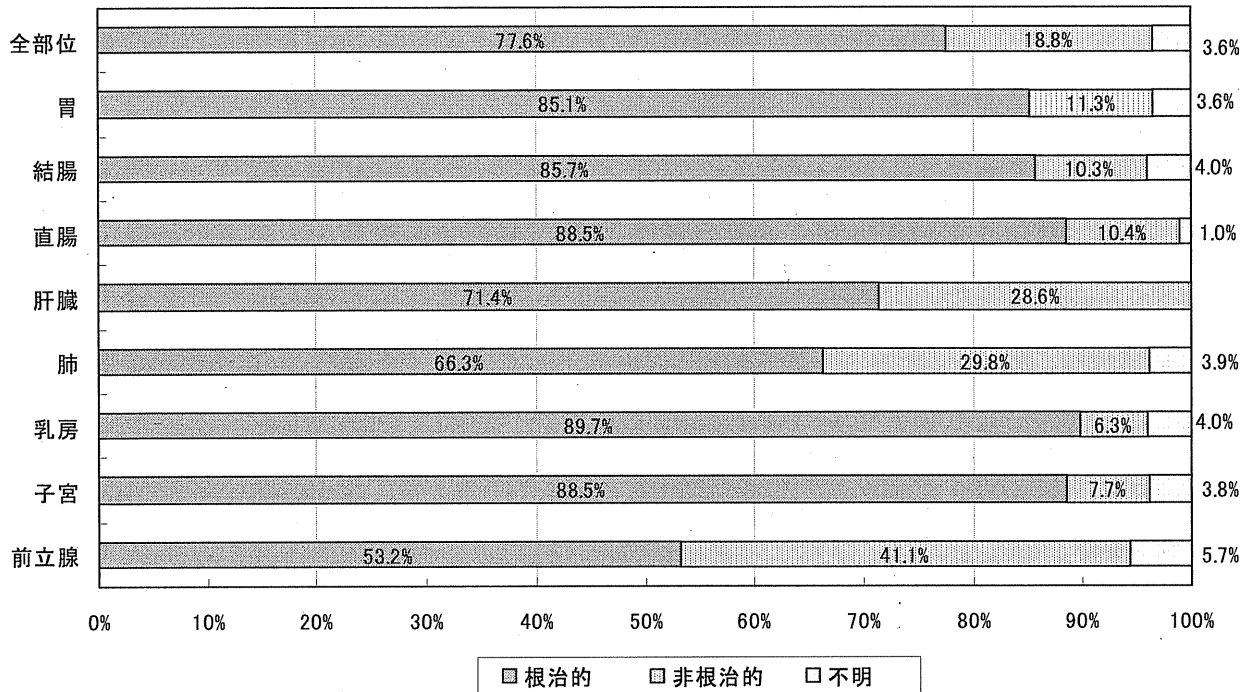
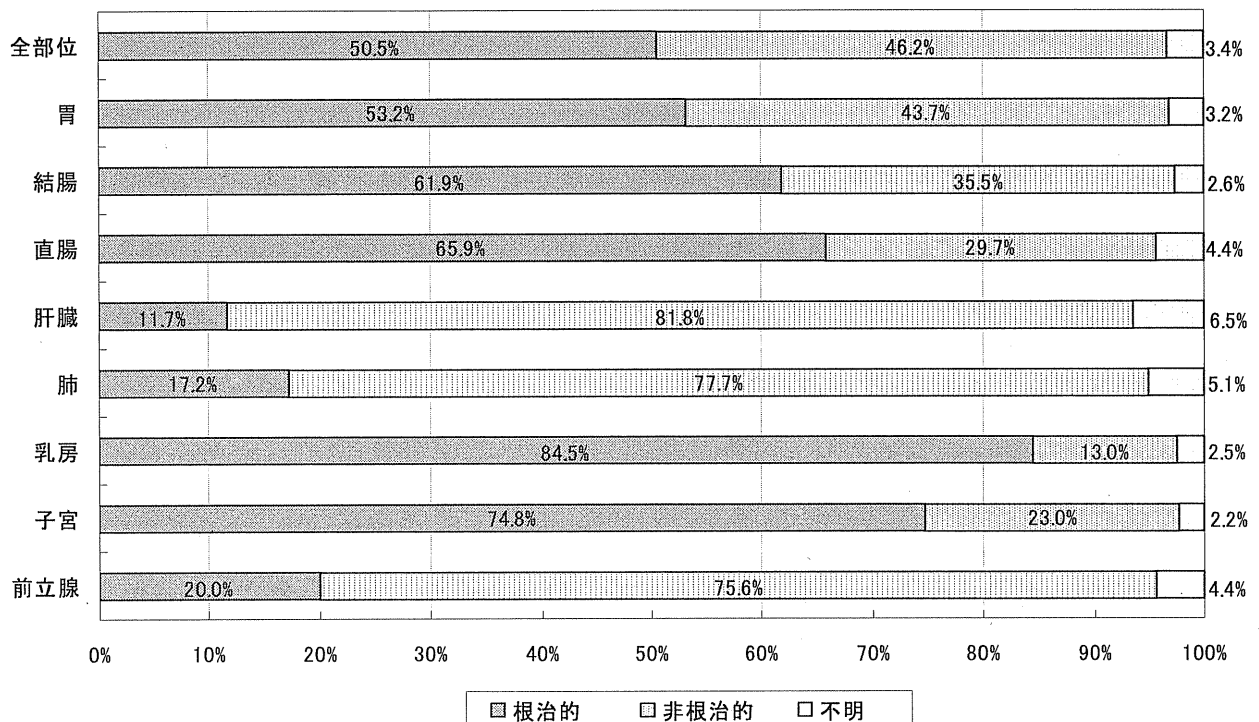


図16 根治的治療別割合<非検診群>



(3) 部位別、進行度割合

検診群、非検診群について進行度別割合を、図 17, 18 に示した。上皮内がんの占める割合は検診群では子宮 48.1%、非検診群では結腸 10.7%と高く、上皮内がん、原発臓器に限局の占める割合は子宮を除いて検診群の方が高かった。

図 17 進行度割合<検診群>

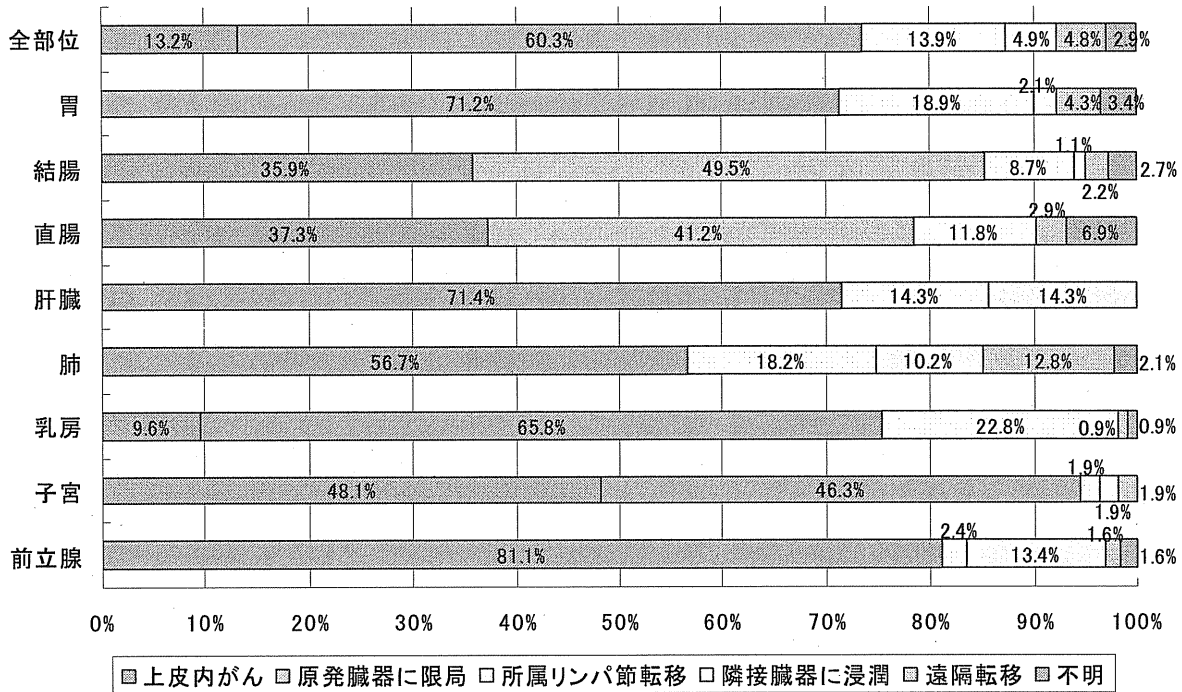
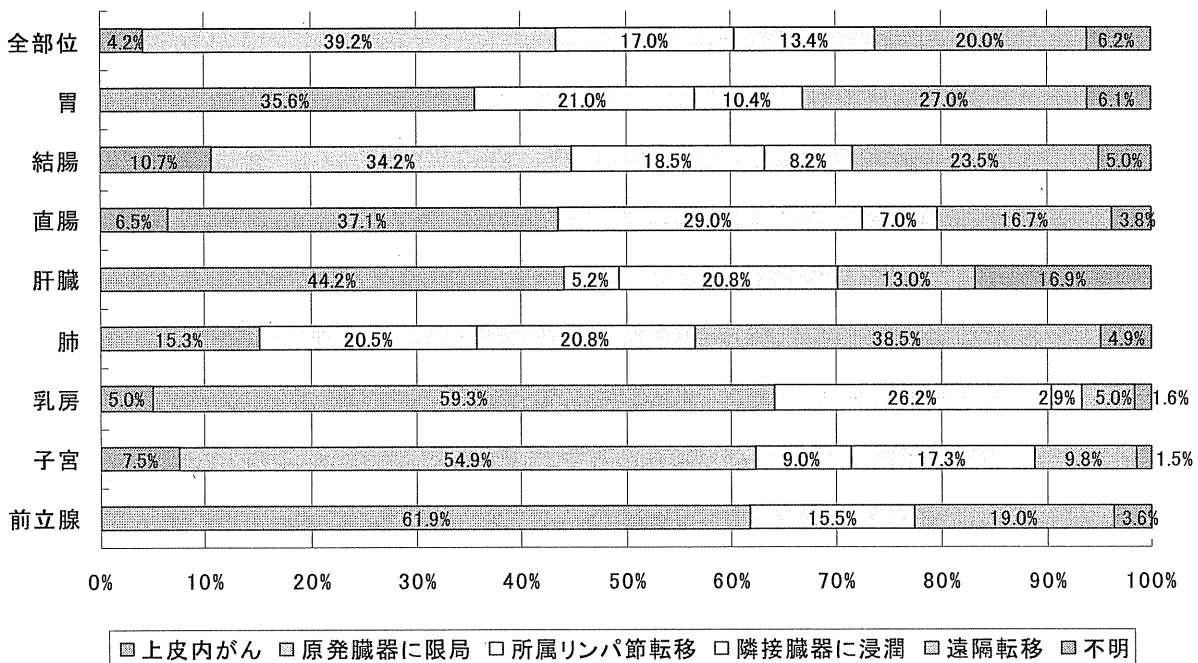


図 18 進行度割合<非検診群>



2. 受検割合（診断方法の分布）

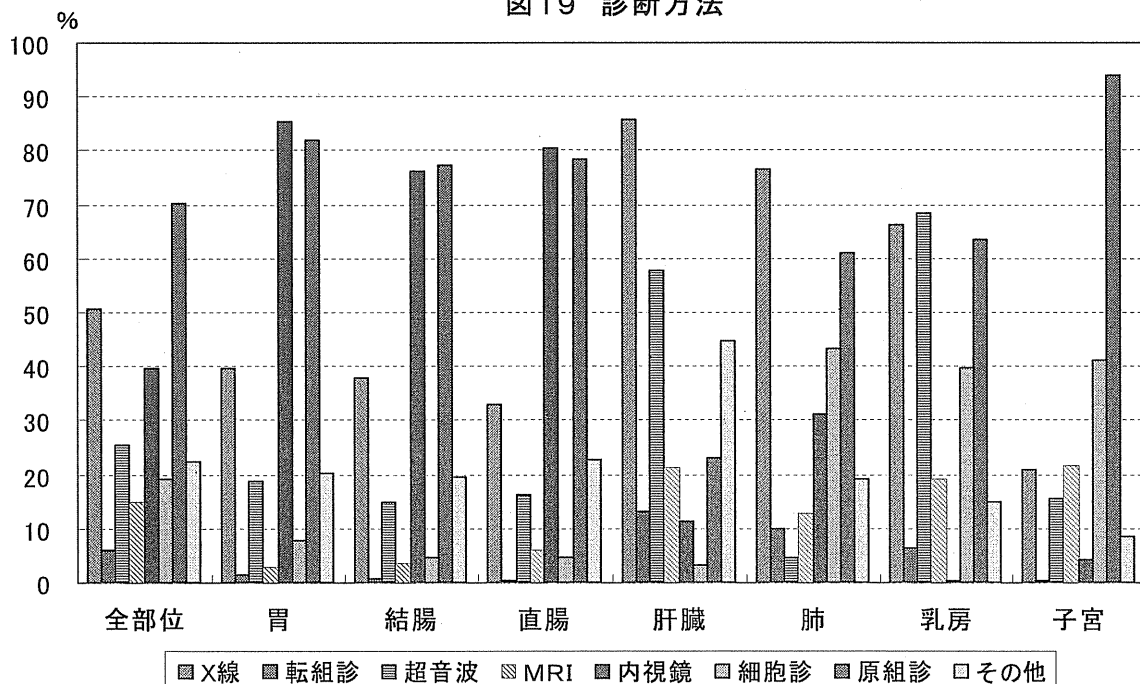
受検の割合（診断方法の分布）を表9に示した。複数の診断方法を受けた場合には、それぞれの診断方法ごとに重複して計上した。

受検の割合は、全部位では原組診が70.3%と高く、ついでX線、内視鏡、転移巣の組診、細胞診、MRIの順であった。部位別で組織診断が実施された割合が高いものは、子宮、前立腺、胃で、細胞診が高いものは、肺、子宮、乳房であった。

表9 診断方法実施率の分布：特定部位別

	届出患者数	受診の動機		診断方法実施率の分布(%)							
		不明(%)	判明(%)	X線	超音波	転組診	MRI	内視鏡	細胞診	原組診	その他
全部位	8,624	4.0	96.0	50.9	6.1	25.5	15.0	39.8	19.1	70.3	22.3
胃	1,384	3.8	96.2	39.7	1.4	18.9	3.0	85.5	7.9	81.9	20.4
結腸	941	2.2	97.8	37.8	0.7	14.9	3.6	76.2	4.6	77.4	19.6
直腸	548	3.7	96.3	32.8	0.4	16.2	6.2	80.5	4.6	78.3	22.6
肝臓	558	5.6	94.4	85.8	13.3	57.7	21.1	11.3	3.2	22.9	44.6
肺	1,129	4.9	95.1	76.5	9.8	4.5	12.8	31.4	43.3	60.9	19.3
乳房	768	1.5	98.5	66.4	6.5	68.4	19.0	0.5	39.6	63.5	14.8
子宮	294	4.2	95.8	20.7	0.3	15.6	21.8	4.4	41.2	93.9	8.5
前立腺	555	3.1	96.9	32.6	21.1	38.7	34.2	7.7	2.7	91.9	42.3

図19 診断方法



3. 受療割合（治療方法の分布）

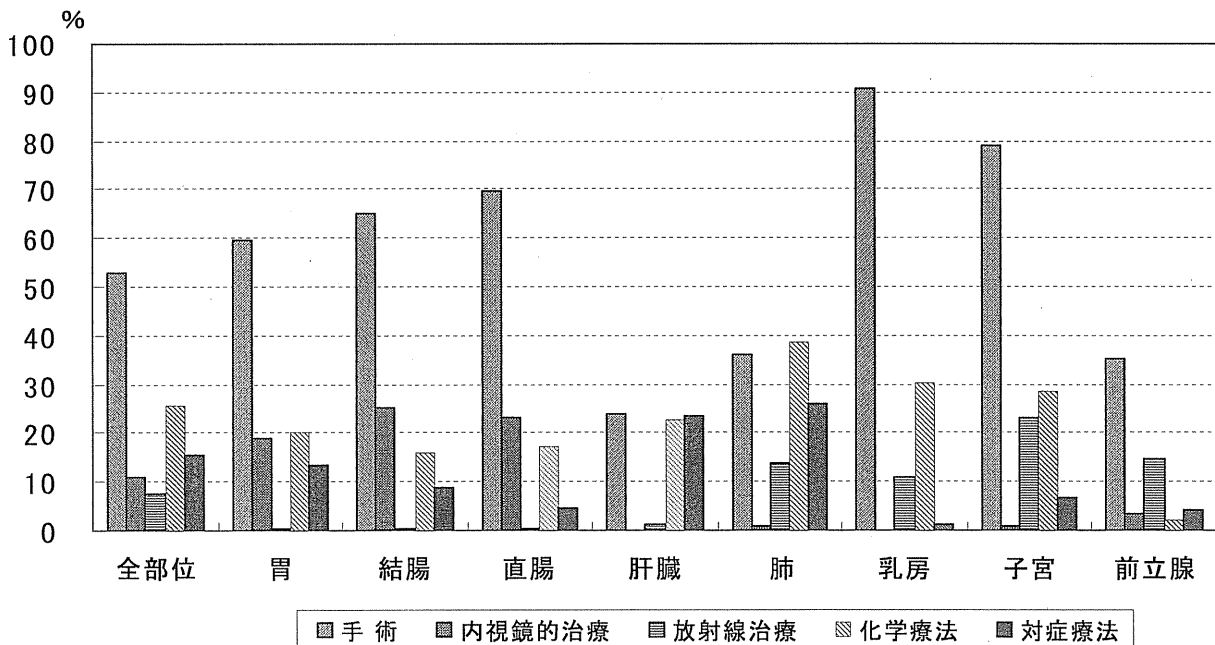
表 10 に治療方法の実施率の分布を示した。治療について、併用療法を受けた場合には、それぞれの治療方法ごとに重複して計上した。

全部位では「手術」の割合が最も高く 52.9%であった。部位別で見ると、「手術」の割合が高いのは、乳房(90.9%)、子宮(78.9%)、直腸(69.7%)、結腸(65.3%)で、低いのは、肝臓(24.1%)であった。「放射線治療」は、子宮(23.2%)、前立腺(14.9%)で高く、「化学療法」は、肺(38.7%)、乳房(30.2%)で高かった。

表10 治療方法実施率の分布:特定部位別

	届出患者数	受診の動機		治療方法実施率の分布(%)							
		不明(%)	判明(%)	手術	内視鏡的治療	放射線治療	化学療法	ホルモン療法	免疫療法	対症療法	その他
全部位	8,374	6.8	93.2	52.9	10.8	7.4	25.6	6.2	0.6	15.6	8.7
胃	1,338	7.0	93.0	59.6	18.9	0.3	20.1	0.1	0.1	13.5	4.6
結腸	924	4.0	96.0	65.3	25.3	0.3	16.1	0.0	0.0	8.8	3.8
直腸	541	4.9	95.1	69.7	22.9	0.6	17.2	0.0	0.2	4.6	5.0
肝臓	535	9.5	90.5	24.1	0.0	1.1	22.6	0.0	0.2	23.7	54.2
肺	1,079	9.1	90.9	36.0	0.8	13.9	38.7	0.2	0.2	25.9	7.4
乳房	761	2.4	97.6	90.9	0.0	10.8	30.2	33.8	0.3	1.4	1.6
子宮	285	7.2	92.8	78.9	0.7	23.2	28.8	1.1	0.4	6.7	1.8
前立腺	524	8.6	91.4	35.5	3.4	14.9	1.9	47.1	0.2	4.4	5.3

図20 治療方法



4. 診断時の病巣の広がり

診断時の臨床進行度（病巣の広がり）を表11に示した。

本登録室では、1 上皮内、2 原発臓器に局限、3 所属リンパ節転移、4 隣接臓器に浸潤、5 遠隔転移の5病期分類からなる「臨床進行度分類」を採用した。

がんが原発臓器に局限（上皮内がんを含む）していたのは全部位で52.7%であった。部位別に、「原発臓器に局限（上皮内を含む）」が高かったのは、皮膚、膀胱、前立腺、肝臓で70%を超えた。「所属リンパ節転移」については、甲状腺が30%を超えた。「隣接臓器に浸潤」については、卵巣、胆嚢・胆管、膵臓も30%を超え、「遠隔転移」については、膵臓が43.4%と極めて高かった。

表11 臨床進行度分布:主要部位、男女計 届出患者 2006年

部位	臨床進行度 判明(%)	判明者中の分布(%)					
		上皮内 がん(A)	原発臓器 に局限(B)	(A)+(B)	所属リンパ 節転移	隣接臓器 に浸潤	遠隔転移
全部位	89.8	5.7	47.0	52.7	13.3	11.8	16.0
口腔・咽頭	91.9	2.7	38.1	40.7	22.1	19.5	8.8
食道	95.2	5.6	28.5	34.1	22.3	18.4	13.4
胃	94.9	0.0	53.7	53.7	15.7	7.9	17.4
結腸	96.6	17.9	41.2	59.1	14.5	7.5	15.0
直腸	95.4	15.3	40.3	55.6	21.4	5.2	14.2
肝臓	92.7	0.0	73.0	73.0	2.4	10.0	6.9
胆嚢・胆管	89.6	0.4	25.9	26.3	4.5	37.5	23.2
膵臓	91.1	0.0	7.4	7.4	9.8	35.0	43.4
喉頭	91.8	4.4	64.4	68.9	20.0	6.7	0.0
肺	93.3	0.1	32.5	32.6	16.7	16.2	28.2
皮膚(*3)	90.8	18.9	70.9	89.9	1.4	2.0	3.4
乳房	92.3	5.4	60.3	65.7	24.7	2.1	5.0
子宮	88.6	19.9	49.3	69.1	6.3	15.1	8.1
卵巣	89.2	0.0	30.3	30.3	6.1	38.4	19.2
前立腺	86.9	0.0	73.3	73.3	2.2	10.8	9.8
腎など(*4)	89.8	3.1	57.0	60.1	3.1	12.4	18.7
膀胱	90.1	22.3	58.3	80.6	2.8	6.7	3.5
脳など	78.8	0.0	63.4	63.4	0.0	2.4	2.4
甲状腺	98.4	0.0	45.2	45.2	35.5	12.9	5.6
リンパ腫など	42.1	0.0	13.4	13.4	6.3	12.5	31.3
多発性骨髄腫	32.2	5.3	5.3	10.5	5.3	0.0	21.1
白血病など	14.7	0.0	6.7	6.7	0.0	6.7	0.0

腎など(*4):上皮内がんは「その他の泌尿器(D091)」に属するもので占められる

皮膚(*3):皮膚の黒色腫を含む

V 登録罹患者の5年相対生存率

本集計の対象は、2003年1月1日から2003年12月31日までの間のがんと診断された者であり、胃、大腸、肺、乳房、子宮の各部位について、男女別、受診動機別に相対生存率を算出した。また、食道、肝臓、前立腺、腎臓については、男女別に相対生存率を算出した。

生存率計測は、予後不詳の罹患者割合を、対象者の5%未満にとどめることを目標とされているが、本登録室は人口動態調査死亡票の照合による確認のみで生存確認調査は実施していないため、県外転出により死亡の情報を得ていない罹患者を生存とみなして扱うため、実際より生存率を高く見積もっている可能性がある。

相対生存率は、がん以外の死因により死亡した罹患者情報を把握していない場合、がん以外による死亡を補正するものであり、一般住民群について生命表から求めた期待生存率に対する実測生存率の比である。

$$\text{相対生存率} = \text{実測生存率} / \text{期待生存率}$$

算定の条件として

- 1) 死亡情報によって登録室が初めて把握した罹患者（DCN）で生前の医療情報を得ることができた補充届出罹患者は、診断日により対象とした。
 - 2) 死亡情報のみで登録された罹患者（DCO）は除外した。
 - 3) 上皮内がんのみの罹患者は除外した。
 - 4) 多重がんの罹患者は、第一がんのみを集計対象とした。
- また、第一がんが上皮内がんで、第二がんが浸潤がんの場合は第二がんを採用した。

図21に部位別の5年相対生存率を示した。

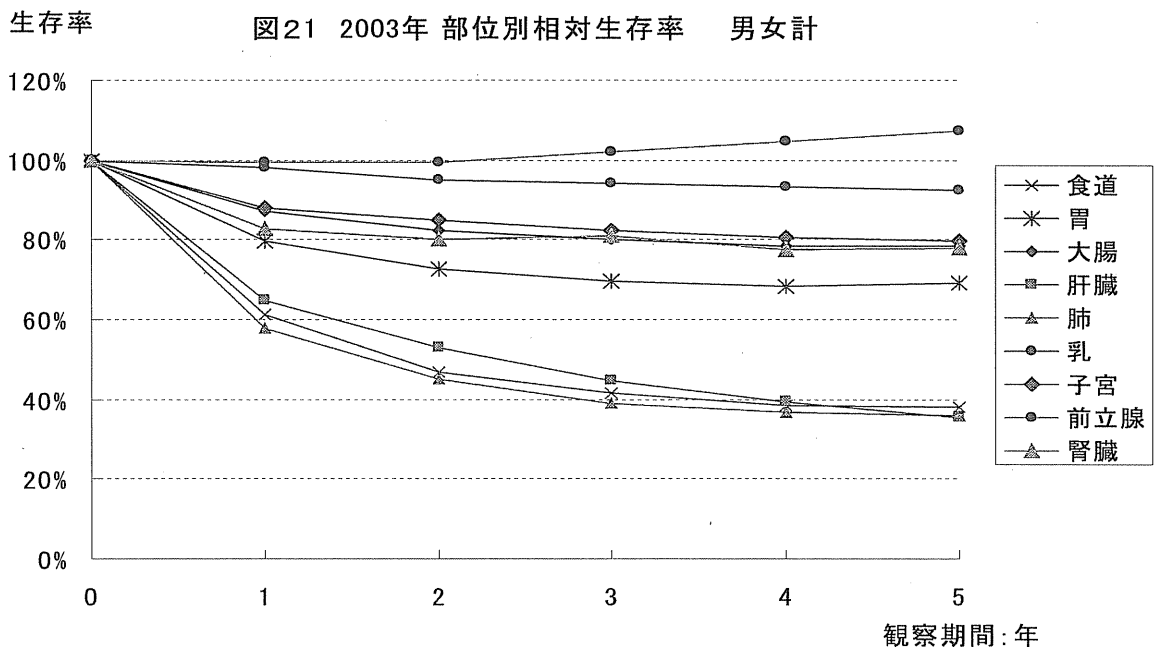
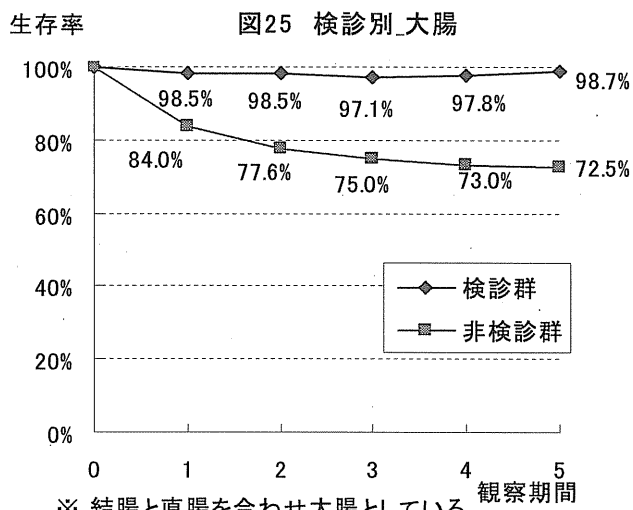
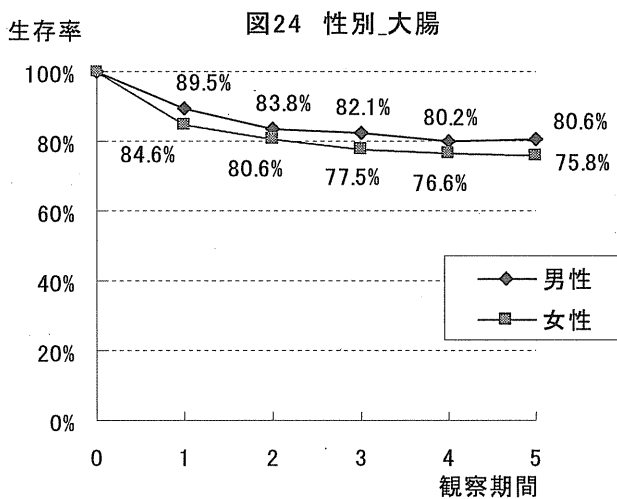
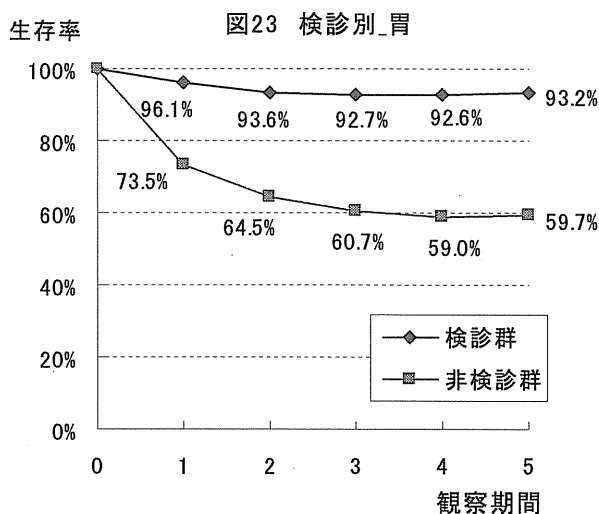
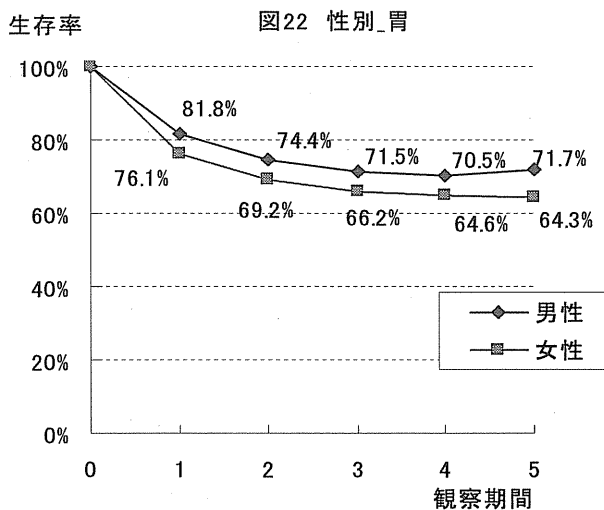


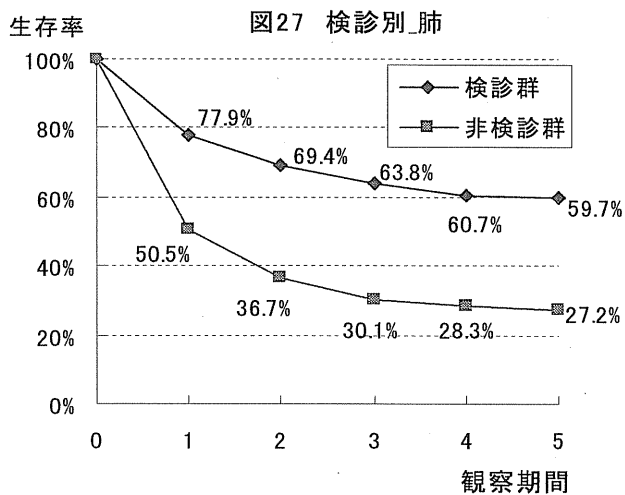
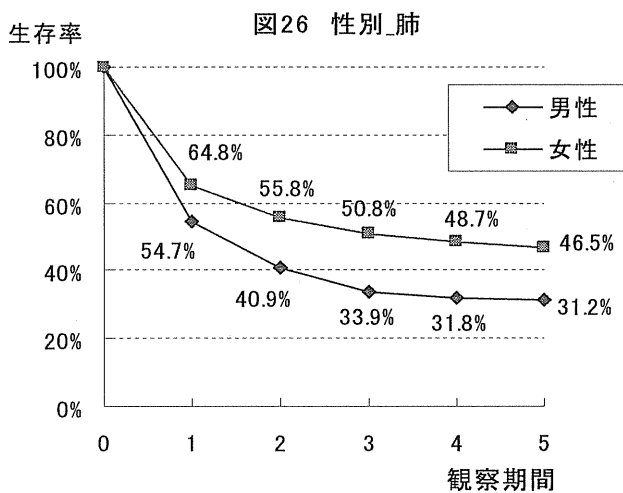
図 22～35 に、部位別にそれぞれ男女別の 5 年相対生存率を示した。
 胃、大腸、肺、乳、子宮の 5 部位と全部位に関しては受診動機別での 5 年相対生存率も示した。

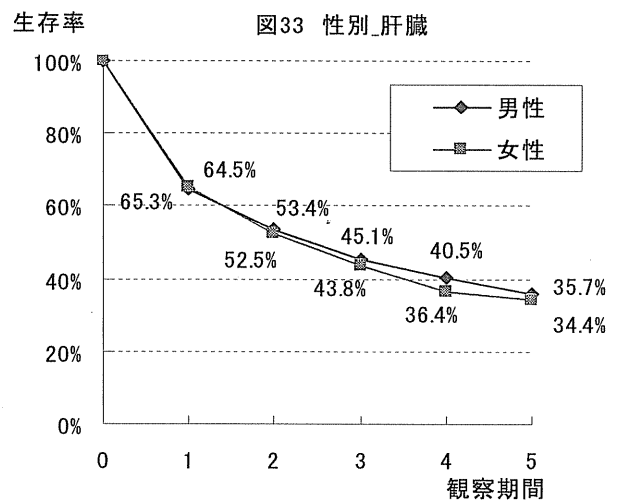
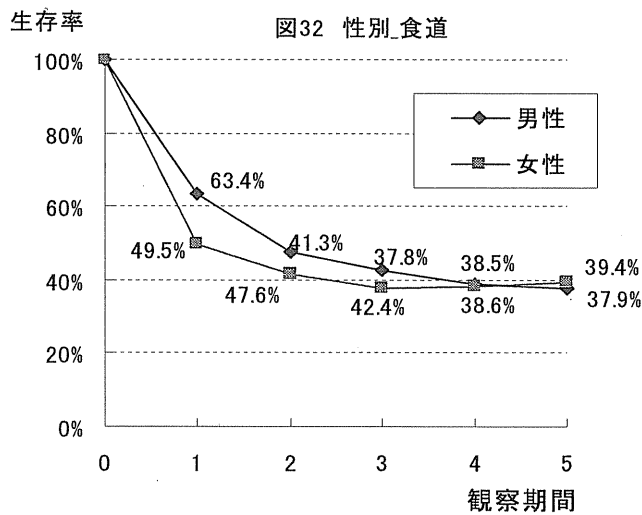
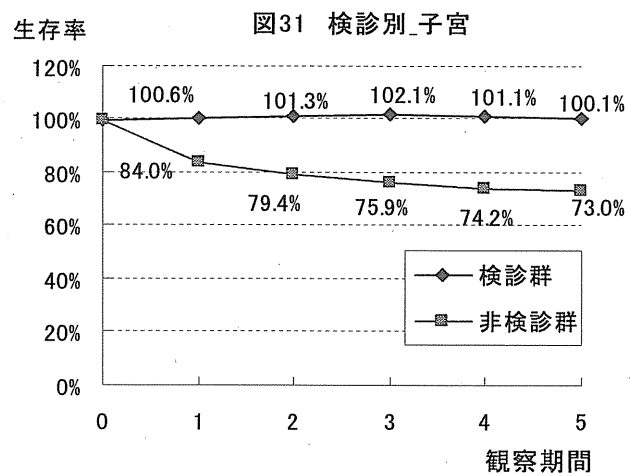
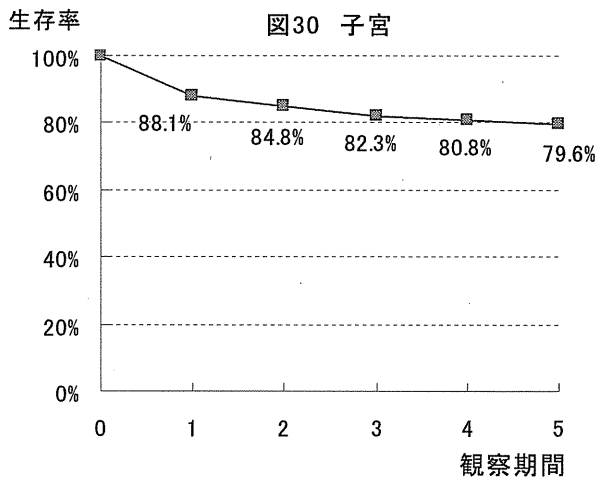
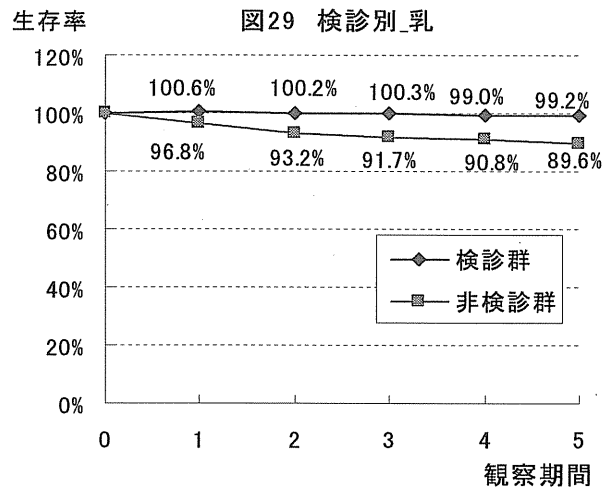
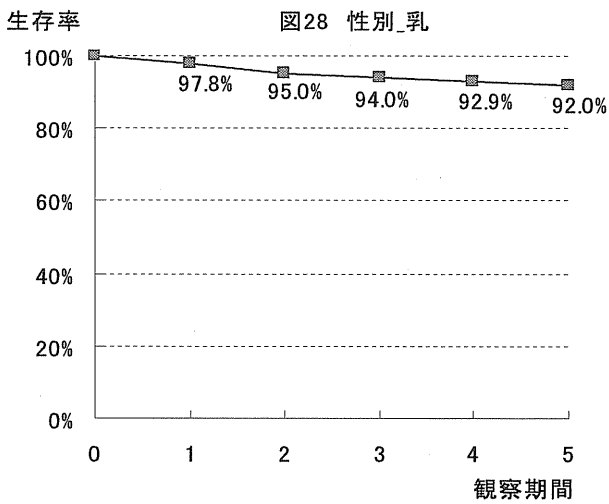
すべてにおいて検診群の方が非検診群比べ 5 年相対生存率は高い。

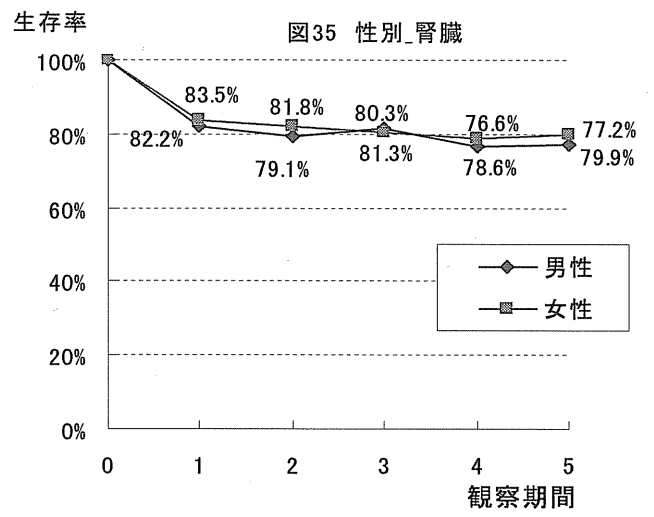
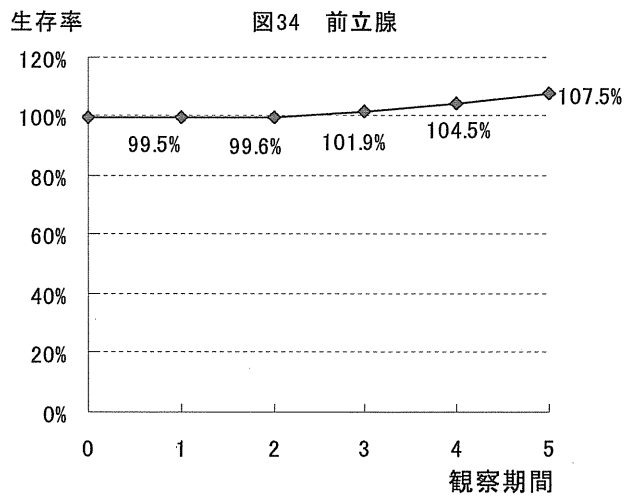


※ 結腸と直腸を合わせ大腸としている。

※ 結腸と直腸を合わせ大腸としている。







【参 考】 部位別5年実測生存率を示した。

2003年 部位別実測生存率(性別)

部 位・性別		生存年数				
		1年	2年	3年	4年	5年
食 道	男	61.6	44.9	39.1	34.8	33.3
	女	55.0	50.0	40.0	35.0	35.0
胃	男	75.5	66.8	61.5	58.4	56.0
	女	47.8	39.1	34.8	34.8	34.8
大 腸	男	86.5	78.4	74.2	69.9	67.5
	女	82.4	76.7	71.9	69.4	66.8
肝 臓	男	62.6	50.2	41.1	35.7	30.4
	女	63.3	49.5	40.3	32.7	30.1
乳	女	96.8	93.0	90.9	88.7	86.6
子 宮	女	87.0	83.0	79.8	77.6	75.8
肺	男	52.4	37.9	30.2	27.2	25.6
	女	62.7	52.9	47.1	44.3	41.4
前立腺	男	95.5	91.5	89.4	87.2	85.0
腎 臓	男	80.0	75.0	75.0	68.8	67.5
	女	81.6	78.9	76.3	73.7	73.7

2003年 検診群部位別実測生存率(検診・非検診別)

部位・検診群		生存年数				
		1年	2年	3年	4年	5年
胃	検診群	96.1	93.6	92.7	92.6	93.2
	非検診群	73.5	64.5	60.7	59.0	59.7
大腸	検診群	98.5	98.5	97.1	97.8	98.7
	非検診群	84.0	77.6	75.0	73.0	72.5
肺	検診群	77.9	69.4	63.8	60.7	59.7
	非検診群	50.5	36.7	30.1	28.3	27.2
乳	検診群	100.6	100.2	100.3	99.0	99.2
	非検診群	96.8	93.2	91.7	90.8	89.6
子宮	検診群	100.6	101.3	102.1	101.1	100.1
	非検診群	84.0	79.4	75.9	74.2	73.0